

平成 23 年 5 月 16 日

横浜市での報道発表について
(腸管出血性大腸菌による食中毒事案関連)

別紙のとおり、横浜市で報道された旨、連絡がありましたので、参考までにお知らせします。

なお、食中毒と断定された理由は、富山県の腸管出血性大腸菌O157 食中毒患者の菌株と遺伝子パターンが一致したことによるものとされています。

やきにくざかや
「焼肉酒家えびす」に関する調査状況について (第5報: 5月16日時点)
～横浜上白根店に対する営業禁止処分について～

「焼肉酒家えびす」横浜上白根店の利用者から検出された腸管出血性大腸菌^{オー}O157のDNAと富山県で検出された腸管出血性大腸菌O157のDNAのパターン^{※1}が、本日一致したため、横浜市保健所は、横浜上白根店を原因とした食中毒と断定し営業禁止処分^{※2}を行います。

なお、横浜若草台店については調査を続けています。

1 施設について

営業者 : 株式会社 フーズ・フォーラス 代表取締役 ^{かんざか} 勘坂 ^{やすひろ} 康弘
名称 : 焼肉酒家 えびす 横浜上白根店
施設所在地 : 横浜市旭区上白根町729番地1
営業の形態 : 飲食店 (一般食堂)

2 調査結果及び検査結果について

(1) 利用者2名

患者 (以下A氏) 10歳代女性 4月25日入院
溶血性尿毒症症候群 (HUS) 発症

同行者 (以下B氏) 20歳代男性 症状なし

(2) 利用日

平成23年4月19日

(3) メニュー

ユッケ、ハラミ、豚バラ、トントロ、塩若鶏、塩ぼんじり、もやしナムル、フレッシュサラダ、サンチュ、ライス、杏仁豆腐、ソフトクリーム、ウーロン茶、ジンジャーエール

(4) 検査結果

5月4日 A氏と一緒に横浜上白根店を利用のB氏の検便を採取。

5月8日 B氏の検便から腸管出血性大腸菌O157 (VT1・VT2) ^{※3}が検出。

5月16日 B氏の便から検出された腸管出血性大腸菌O157と富山県の患者便から検出された腸管出血性大腸菌O157のDNAパターンが一致。

3 食中毒の断定について

(1) 横浜市のB氏の便から検出された腸管出血性大腸菌^{オー}O157 (VT1・VT2)と富山県の患者便から検出された腸管出血性大腸菌O157 (VT1・VT2)のDNAパターンが一致した事から富山県、福井県と横浜市の系列店に共通の感染源が流通していたことがわかりました。

(2) 横浜市のA氏は、腸管出血性大腸菌O111により溶血性尿毒症症候群 (HUS) を発症したと診断されています。

(3) 富山県、福井県内の同一系列店利用者から多くの患者が発生し、DNAパターンが一致した腸管出血性大腸菌O111が検出されています。

(1)、(2)及び(3)から、同一系列店には共通の汚染された食材が流通し、かつ利用者に腸管出血性大腸菌O111を原因とする溶血性尿毒症症候群 (HUS) の発症がみられることから(2)の患者発生についても横浜上白根店を原因とする食中毒と断定いたしました。

※1 DNAパターン分析

(厚生労働省ホームページ腸管出血性大腸菌Q&A http://www1.mhlw.go.jp/o-157/o157q_a/index.html#q5)

生物の遺伝情報をつかさどるDNAはA(アデニン)、G(グアニン)、C(シトシン)、T(チミン)の4種の塩基からなり、この配列はそれぞれの菌株により異なっていることがわかっています。これを利用して腸管出血性大腸菌をDNA分析と呼ばれる方法で解析すると、汚染原因菌の由来が同じ株によるものかどうか、更には腸管出血性大腸菌による汚染源が、同じかどうかを推定することができます。腸管出血性大腸菌に対するDNA分析法として、現在、主に「パルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)」と呼ばれる方法がもちいられています(今回、横浜市、富山県ではこの方法で検査を行っています)。

これは、腸管出血性大腸菌のDNAを制限酵素で切断処理後、寒天(ゲル)の中で特殊な電気泳動を行い、そこから得られるDNAのパターンを比較する方法です。このパターンは、数十本からなるDNAの断片が作り出すもので、丁度、いろいろな商品についているバーコードの帯に似ています。

これまで、国内で集団発生を起こした腸管出血性大腸菌のDNAパターンの分析結果から、細かくみると、数千種類のパターンがみられています。

※2 営業禁止処分

食品衛生法第55条第1項及び第56条に基づき食品衛生の危害が除去され、または再発の恐れがないと認められるまで営業を禁止する処分です。営業停止処分は、期限を定めて行いますが、営業禁止処分は期限を定めず行います。

※3 VT(ベロ毒素)

(厚生労働省ホームページ腸管出血性大腸菌Q&A http://www1.mhlw.go.jp/o-157/o157q_a/index.html#q5)

腸管出血性大腸菌は、毒力の強いベロ毒素(志賀毒素群毒素)を出し、溶血性尿毒症症候群(HUS)などの合併症を引き起こすのが特徴です。溶血性尿毒症症候群が発症する機構は十分には解明されていませんが、この毒素が身体の中で様々な障害を起こすことによって、全身性の重篤な症状を出すものと考えられています。

ベロ毒素には、赤痢菌の出す志賀毒素と同じ1型(VT1)と、それと異なる構造を持つ2型(VT2)及びこれらの亜型があります。

腸管出血性大腸菌には、これらの毒素のうち1つもしくは複数を出すものがあります。

【参考】

1 食材等検査について(横浜市衛生研究所検査)(5月16日現在)

		検査検体数	検査結果
横浜 上白根店	食材	28 検体	全て陰性
	ふきとり検査	20 検体	全て陰性
	従事者検便	23 検体	全て陰性
横浜 若草台店	食材	13 検体	1 検体から大腸菌O111(VT非産生株)が検出 他は全て陰性
	ふきとり検査	9 検体	全て陰性
	従事者検便	27 検体	全て陰性

2 市民の皆さまからの相談

市民の皆さまからの相談は53件ありました(5月16日現在)。相談者の方47名の検便を行いました。47名の検便からは、大腸菌O111、O157は検出されていません。

3 関連する行政処分について

富山県は、「焼肉酒家えびす砺波店」を4月27日、「焼肉えびす駅南店」を4月30日に営業停止、その後、両店に対して5月6日営業禁止処分を行いました。

富山市は「焼肉酒家えびす富山山室店」を5月6日に営業停止処分を行いました。

福井県は、「焼肉酒家えびす福井湊店」を5月2日に営業停止、5月6日営業禁止処分を行いました。

お問い合わせ先

横浜市保健所健康安全課長	岩田 眞美	Tel 045-671-2442
横浜市保健所食品衛生課長(店舗立入調査について)	桃井 宏之	Tel 045-671-2435